

令和7年度北部公民館重点目標に対する評価

- (1) 今後も地域の団体などと連携・協力し、地域の資産を活かした特色ある公民館事業や地域の行事を共催で実施することで、地域住民の交流と豊かな地域づくりを目指していく。

評価：学校との連携として、文化祭の発表、展示において、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の生徒に日頃の学校生活での成果の発表機会を設けるとともに、子どもまつりでは、中学校による発表のほか、高等学校に創設されたeスポーツ同好会によるドローン操作体験及びプログラム体験を実施し、地域の子供達から好評を得た。

地域団体との連携として、豊富連合町会との共催で、グランドゴルフ大会、体育レクリエーション大会を実施し、地域の子供から高齢者まで幅広い年代の参加があり、世代間交流、地域交流の向上を図ることができた。

また、スポーツ推進員、青少年相談員、生涯学習コーディネーター、包括連携協定民間企業によるパラスポーツや軽スポーツ、昔遊びや工作等を実施し、地域の子供達が楽しむ場を地域との連携により創出する等、目標を概ね達成することができた。

- (2) 行政機関や地区社会福祉協議会などと連携・協力をし、高齢者の健康寿命を延ばし健康で豊かな生活を過ごせるような事業を企画し、高齢者の社会参加と健康の維持・増進を図る。

評価：豊富寿大学での防災、生活安全、健康づくり等の講座（危機管理課、市民安全推進課、地域保健課との連携）や、ふなばしシルバーリハビリ体操（健康づくり課との共催）等を実施し、外出機会の増加、仲間づくり、健康増進等を図ることで、地域の高齢者の健康寿命の延伸につなげる取り組みができ、目標は概ね達成できた。

- (3) 地域の方々が楽しんで参加してもらえるような魅力ある事業や地域の特色を活かした事業を企画し広報紙や公民館報を通し、学習機会や情報の提供をし、人と人とが交流することで地域の活性化を図るとともに、サークルに発展するよう努める。

評価：広報ふなばしや公民館報とよとみだよりを通し、菊づくり、歴史、古文書、陶芸、料理等の様々な分野の講座を開催し、地域住民に学習機会や地域交流の場を創出することができた。その結果、新規でサークル化に至るものはなかったが、講座終了後に同分野の既存の社会教育関係団体に加入する者があったことから、目標は概ね達成できたが、来年度はより多くの者が加入に至るよう工夫するとともに、新規の社会教育関係団体の実現にも努める。

- (4) 北部地区公民館の基幹館として地区館との連携を図り、広域事業の実施や施設管理などの支援に努める。

評価：北部地区8館の基幹館として、公民館利用の継続のため各館の修繕等を実施し適切

な施設管理に努めた。

今後も基幹館として広域事業や施設管理など、地区館と連携し地域住民の地域活動、文化活動の拠点としての円滑な公民館運営を図る。

令和7年度二和公民館重点目標に対する評価

- (1) 社会教育関係団体を講師に招いた事業や団体間の交流の場を設ける等、日ごろの活動成果を発表する機会を充実させる事業を実施する。また、様々なライフステージに応じた事業を展開することで、サークル化につながるよう支援に努める。

評価：サークル活動の成果を発表する機会として、文化祭以外にサークルの体験や見学会といった「サークル活動支援事業」を実施した。また、社会教育関係団体である「二和そばの会」を講師に招き、成人と親子を対象としたそば打ち体験の実施や文化祭における模擬店への出店により、社会教育関係団体と地域住民との交流の機会を提供することができた。文化祭においては展示部門・発表部門共に集客が多く、地域交流とサークル活動への理解と関心を一層深めてもらうことができた。

- (2) 高齢者の引きこもりや孤立防止につながる事業を実施し、併せてデジタルデバインド対策や健康づくりにも重点を置き、高齢者を健康で豊かに暮らすための場を提供する。

評価：定着した「二和寿大学」のほか、高齢者の健康づくりに繋がる主催事業の「ふなばしシルバーリハビリ体操教室火曜コース」では、延べ746名と前年度より51名も多い参加があり、地域への広がりを実感できた。また、デジタルデバインド対策としてスマートフォンの基本操作からLINEや防災アプリによる災害対策の体験講座を実施。スマートフォンの便利さを知る機会を提供できた。

前年度より開始した北部保健センターとの共催事業「健康講座」では市医師会理事の健康スポーツ医による講話と健康運動指導士による心と身体のセルフケアの実技により高齢者のうつ病予防を学んだ。

- (3) 幅広い世代が参加できる事業を実施するとともに、地域のコミュニティの場として利用を促進し、気兼ねなく立ち寄れる公民館を目指す。また、二和地区自治会連合会と連携し、災害時における各家庭での備えや自治会等の備蓄品について確認できる機会を提供し、自宅避難や自主避難時の留意点を学べる事業と併せて、多発する詐欺・詐欺的取引による地域住民の被害を未然に防止するため、様々な注意喚起や情報提供等となる講座を実施していく。

評価：青少年事業では好評を博した「夏休み子供工作教室」や「アイシングクッキーの体験教室」のほか、新規事業の「夏休み親子環境マーク学習教室」では、身近にある環境マークについて学び、併せて回折格子分光器作りに挑戦するなど、親子で興味・関心を持って環境学習に取り組む場の提供ができた。

成人対象事業では、例年多数の申込みがある「ライフアップ講座」や「はじめての足裏リフレ」「郷土史講座」をはじめ、新規事業の「新聞バッグ制作講座」では、北図書館の保存期限が過ぎた英字新聞を教材にしたため有効活用につなぐことができ、また、参加者同士の交流や親睦を図っている様子もうかがえた。

二和地区自治会連合会との共催事業では、消費者トラブルの未然防止と日ごろ使っている家電や日用品の事故について学び、主催事業の防災講座では耐震についての講話と、身近にあるものを使い二人一組で行う応急救護の実技など災害への心構えと非難への備えについて学ぶ機会を提供することができた。

(4) 音響・照明等の機能を有する講堂を、文化・芸術活動推進のため積極的に活用し、主催事業の充実を図るとともに、各種団体によるコンサートや発表会等の利用を支援する。

評価：「二和劇場」ではボランティアの実行委員会との協働により計画通りに実施することができ、全4回計1,309人の集客があった。また、社教教育課所蔵の視聴覚教材を活用した映画上映会「ふたわ名画座」では、全6回計1,081人の集客があった。

発表会等による利用団体への貸出については、徹底した事前打合せと演出への協力により円滑に実施することができた。

令和7年度海老が作公民館重点目標に対する評価

(1) 深刻な地域の高齢化に対応していくため、地域団体や地区社会福祉協議会と連携し高齢者の生きがいつくり、健康づくり、仲間づくりを目的とした学習や活動を推進する。

評価：事業内容を工夫することによって、高齢者の社会・地域との繋がりを創出出来ると考えて各事業を実施してきた。結果的に事業には一定の参加があり、目標の達成に近づいたと考えている。

(2) 高齢者の希望に合ったデジタルデバインド対策講座を引き続き実施し、デジタルデバインドの解消を図る。

評価：デジタルデバインド講座を実施し対策とした。一步ずつではあるが目標達成に向かっていている。高齢者割合が多い地域な為、引き続き粘り強くイベントを継続していきたい。

(3) サークル活動が継続して行えるよう、サークル活動を支援するとともに、新たな会員獲得に向けたサークル支援事業を引続き実施していく。

評価：社会教育関係団体研修会を実施し、必要書類の記入方法をレクチャーした。またサークル体験会を実施し、少数ではあったが新規加入者がおり、公民館でのサークル活動継続支援になったと考えている。

今後についてはサークルのポスターを見ている来館者などに対する声かけを職員から積極的に行い、サークル活動参加へのきっかけを作っていきたい。

(4) 青少年育成団体や学校、児童ホーム等と協力しながら、青少年の活動の場を確保するとともに、創作活動や新たな仲間と遊ぶことの楽しさを体得できる取組を実施していく。

評価：船橋市ハッピーサタデー事業を地域青少年関係団体で構成される、海老が作青少年事業実行委員会と開催し、多くの子供たちの参加があった。

また、こども祭りでは、管内小学校の発表参加（よさこい、合唱）も行い、地域の子供たちの公民館活動参加によって、地域交流、世代間交流も図られたと考える。

(5) 市民協働による公民館活動を推進し、市民ニーズを取り入れ、幅広い世代の市民に多様な学習や芸術活動を提供する。

評価：地域住民で構成された海老が作コンサート実行委員がコンサート内容を企画し、2回実施した。また、各方面からの学びをテーマとした「学びの糸口～心楽暮（こらぼ）～」についても地域で活動する方々による意見によりプログラムが企画され、それを実施することができた。多くの参加者があり、市民のニーズに寄り添った内容の事業が行えたと考える。

令和7年度小室公民館重点目標に対する評価

- (1) 青少年教育の充実を図るため、小室地区青少年健全育成連絡協議会や各種団体、学校等と連携し、青少年の探求心に応じ、参加意欲を掻き立てるような体験学習等健全育成を図る。

評価：ハッピーサタデー事業では新しい事業も取り入れた。また「こどもまつり」は、子供たちが楽しめるよう様々な工夫を凝らし、小室児童ホームをはじめ小室地区青少年健全育成連絡協議会、各種団体と連携したほか、小室中学校の生徒にボランティアの募集をし、生徒の協力も得て実施した。PTAや学校に事業周知についてご協力いただくなど各機関と連携も図りながら事業をすすめることができ、概ね目標は達成できた。

- (2) 地域住民の様々なニーズを捉え、ライフステージに応じた多様で的確な学習機会の提供に努め、すべての世代を通じ新たな利用者の増加を図る。

評価：小室地区は新規住宅の建設が続いており、子育て世代は増加傾向にあるが、現役世代の公民館利用者が少ないのが現状である。幅広い世代に公民館を利用していただくことを目標とし、多種多様な事業を実施した。ジャズ入門講座や刀剣講座など男性の受講者が多い講座もあったことや、自分磨きの講座を土曜に4回実施し、育児等で忙しい中、自分時間をもてたことを喜ぶ声もあるなど現役世代や新たな公民館利用者の参加もあり、概ね目標は達成できた。

- (3) 高齢者が、心身ともに健康で潤いのある生活を送れるよう、地区社会福祉協議会や各種団体と連携し、参加者同士の交流の場と健康増進を図る学習機会の提供に努める。また、高齢者デジタルデバインド対策事業を促進していく。

評価：「小室寿大学」のほか「生き生きと若々しく過ごすための教室」など多様な事業を実施し、高齢者の健康増進を図ることができた。また豊富地区社会福祉協議会と共催で料理サロンを実施し、料理を通して参加者同士の親睦を深めることもできた。デジタルデバインド対策事業のスマホ講座は、昨年同様、高齢者からのニーズが高く情報機器を気軽に使用する機会を提供できた。ただ公民館にスマホの操作方法について尋ねに来る来館者が増えたことから、スマホ講座と併せてスマホコンシェルジュ事業でも継続して支援していきたい。

- (4) 増加傾向にある子育て世代が、地域とふれあい、地域に愛着が持てるように、併設している児童ホームと共に各種活動の機会を設ける。

評価：小室児童ホームと連携しヨガやクリスマス会などの季節行事を開催し、小学生、未就学児や子育て中の保護者同士の交流を図ることができた。家庭教育セミナーでは小・中学生とその保護者に対して親子の交流の機会を提供することができ、また子供

の将来について考えていただけるよう毎年開催しているお仕事講座では、中学生だけでなく高校生の参加もあった。ただ小室公園で開催した自然に親しむネイチャーゲーム、ユニバーサルスポーツ体験等、新しい取り組みや普段馴染みのない体験などは参加者がやや伸び悩む結果となった。今後の対策としては、タイトルの工夫や学校、PTAに引き続き周知にご協力いただくなど、より多くの参加につながるよう工夫を重ねながら様々な体験の機会を提供していきたい。

令和7年度八木が谷公民館重点目標に対する評価

(1) 人口の減少、高齢化が進む地域であっても、地域交流の他、子供同士や世代間の交流が生まれるような機会を提供することにより、人との関わりの中で生活していることを知り、地域への愛着、地域貢献の意識を育む。また、青少年については、体験活動を充実させて、周囲との関わりを増やす。

評価：子供同士等の交流とした「ふなばしハッピーサタデー事業」では、ボッチャやヒップホップダンスなどの運動のほか、風力発電工作や缶バッチづくり、クリスマスパーティー内での万華鏡作り、また MYSK こどもまつりなど、様々な講座を行うことにより、子供たちは様々な体験をすることができた。

「走るコツを学ぼう」では、参加した子供たちは何通りかの走り方を行い、飽きることがなく学ぶことができた。

また「読書感想文教室」「書き初め教室」では、講師の丁寧な指導により作品を完成させ、子供たちの満足度の高いものとなった。

いずれの事業も好評であり、子供の交流や体験活動が行えたものとする。

(2) 地域の高齢化率が高いことから、高齢期を豊かに生きるために、健康維持や増進のための学習機会の提供を推進する。

評価：知識と教養を深め、健康の増進に学ぶ「八木が谷寿大学」では、歴史講座や防犯講座、体操や民謡、落語、映画鑑賞など様々な内容の講座を実施し、満足度は高いものとなった。

また健康づくり・介護予防を目的とした「健康セミナー」においては、認知症予防やフレイル予防のほか、腰痛予防、血管講座、腎臓病、花粉に関するアイフレイルなどの講義を行い、参加者は少ないものの満足度は高いものとなった。

その他に、「シニアリトミック」では、音楽に合わせて体を動かすため、大変好評であった。「介護予防事業」「ふなばしシルバーリハビリ体操教室」でも参加者が多く、満足度も高いことから、高齢者の健康維持や増進のための学習の提供が行えたとする。

(3) 八木が谷地区は交通機関が限られることや、買い物困難地域もあるなどから、キャッシュレスを含むデジタルデバインド対策を推進することにより、高齢者などの方が生活しやすいように学習の機会を提供する。

評価：デジタルデバインド対策事業として「今からはじめる！スマートフォン体験講座(入門編)」

「触っておぼえる！スマホの基本とLINE体験」「触っておぼえる！スマホの基本とキャッシュレス」「はじめてのオンライン体験 Zoom 入門編」を実施したことにより、スマホ等の活用を学ぶことにより生活がしやすい学習の機会を提供できたとする。

(4)「家庭教育の認知」は約7割と高いが、「子供への家庭教育に自信がある」は約3割と高くない為、家庭への教育を推進する。

評価：家庭教育として行った「八木が谷公民館本館家庭教育セミナー」では、子供に親の愛が伝わる接し方や、完璧を目指さない片付け術、パーソナルカラー等の色の活用法を学び、「しっかりと聞くことが大切」「完璧な整理整頓を考えると継続できない」、パーソナルカラーでは「個性を大事にすることが大事」など、家庭教育に取り入れやすい内容となった。また、学校と共催した「就学時健診等における子育て学習」では、新入学の保護者に対して、子供との日頃の接し方を改めて考えさせる内容の講義で、改めて自分の行動を振り返る良い機会になったのではないかと思う。いずれの事業も家庭教育を推進できたと考える。

(5)学習に期待することは、心身の健康を維持・増進することを重視していることや、何かを継続して学ぶことが生活の充実につながると考えられることから、健康関連はもちろん趣味の幅が広がるような事業を実施していくと伴に地域交流にもつながっていく。

評価：「足裏リフレクソロジー教室」では、講義及び実技により、自宅でもセルフケアを行い日々の健康に役立てることができ、「庭木の手入れ入門講座」では、庭木の特徴に応じた剪定の知識や技術を学び、自宅等でも即実践できる実用性のある講座であった。「ベトナム文化紹介講座」では、ベトナムとの習慣の違いなど文化について学ぶことができ、夜間講座として開催した「リラックスヨガ」では、初めて公民館を利用した方もいるなど、満足度も高い講座となった。「有償ボランティア講座」では内容は良いものの参加者が少なく残念であった。講座としては参加者の趣味の幅が広がる事業が実施できたと考える。

(6)サークルの高齢化を防ぐため、新たな会員が入会できるような事業を行い、サークルの活性化を図る。

評価：会員増員や新たな趣味を見つける手助けをするため「八木が谷公民館サークル見学・体験会」を、社会教育関係団体の協力で行った。参加者は少ないものの、全体で7名の新規入会者もあり、サークル活性化及び新たな趣味の発見に役立てることが出来たと考える。

令和7年度三咲公民館重点目標に対する評価

(1) 地域の高齢者の運動機能の向上・健康寿命の延伸、生きがいに寄与する事業を実施し、高齢者が心豊かにすごせる場を提供する。

評価：運動機能向上・健康寿命の延伸のため、「ふなばしシルバーリハビリ体操教室」は2講座開設した。気軽に参加できる運動の場として好評であり、2講座開設が利用者に定着し、両講座とも安定して多くの参加者を集めることができた。「三咲寿大学」は運営委員と協力して実施し、年代に沿った学習を行うとともに参加者の交流の場としても機能している。

(2) 高齢者が気軽に参加しやすい各種の事業を実施し、地域で閉じこもり傾向にある高齢者の参加を促すとともに交流の場を提供する。

評価：「認知症予防教室」を実施し、地域での閉じこもり傾向にある高齢者の参加を促し、かつ介護予防の基本的知識等を普及啓発することで認知症予防に努めた。高齢者を対象とした「デジタルデバインド対策講座」を実施し、スマートフォンを初めて手にする高齢者でも、安全に使用方法を学ぶ機会を提供した。

(3) 社会教育関係団体及び地域の町会・自治会等の組織や地域の団体の活動の支援を行い、社会教育関係団体の育成に努める。

評価：「三咲公民館サークル活動自由見学ウィーク」を実施し、生涯学習に興味がある方とサークルを繋いだ。7年度は当公民館から新たに2団体が社会教育関係団体に承認されたが、そのうちの1団体は主催事業からサークル発足に結び付いた。また、社会教育関係団体の応援講座として「女声コーラス入門」を実施し、講座をきっかけに3名の方が新たにサークルに加わった。

(4) 現代的課題や地域の課題に取り組む事業、住民の学習ニーズに対応する事業、20代から50代の若い世代が興味を抱く講座等を実施し、成人向け事業の充実を図る。

評価：現代的課題であるデジタルデバインドの解消に向け、「デジタルデバインド対策講座」を3講座行った。また、環境講座として「地球温暖化と感染症」、明治安田生命と連携した「大人の塗り絵講座」、料理の基礎を学びつつ参加者同士の交流を深める「おうち時間を楽しむのお料理とお菓子教室」を実施し、成人向け事業の充実を図った。

(5) 併設している児童ホームと連携・協力して、子育て支援事業を実施し、地域の子育て世代が交流できる場を提供する。

評価：「本館家庭教育セミナー」や「英語であそぼう」「助産師さんのベビーマッサージ」を三

咲児童ホームと共催で実施し、子育て世代が交流できる場を提供した。

(6) 近隣地域の学校・児童ホーム・地域団体と協力して、青少年が体験・学習できる事業を実施し、青少年の健全育成や居場所づくりに寄与する。

評価：ふなばしハッピーサタデーでは「りさ育る教室」、「ボッチャ教室」、「手作りおもちゃを作ってあそぼう」等で地域の団体に講師を依頼し、様々な体験・学習ができる事業を実施した。夏休みには地元出身の講師による「夏休みこどもポスター教室」や「地球温暖化とSDGs」を実施した。

(7) 今後、大きな災害が起こることを想定して、地域住民を対象に災害対策に関する事業を実施し、地域住民の防災意識を高め、防災の知識と対策を共有する。

評価：防災講座「在宅避難のススメ」を実施し、避難所に行かずに在宅避難する場合のノウハウを学習した。また飛散防止フィルム貼り体験の実習もして、日頃の備えや災害時の行動、被災した場合の具体的な対応等を学んだ。

令和7年度松が丘公民館重点目標に対する評価

(1) 保健センターや学校、児童ホーム等と連携し、子育てを応援する事業や、青少年の体験活動など子供たちの主体性を伸ばしていく事業を展開することで、子育て世帯を支援する。また、社会教育関係団体や自治会など地域住民の協力により、子供同士や地域の大人との交流を図る機会を積極的に創出することで、「ふるさと船橋」「ふるさと松が丘」に愛着をもつ、人づくり、地域づくりを目指す。

評価：保健センターや学校、児童ホーム等の関係機関と連携し、子供や子育て世代を対象とした事業を実施し、学びや交流の機会を提供することができた。今後も地域とのつながりを意識した事業展開を進め、子供たちの主体性や地域への愛着の醸成を図る。

(2) 令和7年度は、松が丘地区の高齢化率が最も高い地区ではあるが、元気なお年寄りが多い地区であることを将来的に実証していけるよう、高齢者が体力を維持し、社会的つながりを形成できる仕組みづくりの第一歩とする。公民館で身体を動かし、友人と会う機会が自然とつくれるような高齢者向けの活動やプログラムの定期開催を増やすことで、来館を習慣化することを実現させていく。「リスク高齢者」を少しでも減らせるような生きがいつくりや、住み慣れた地域で健やかに暮らし続けられるための健康増進事業の充実を図り、高齢者の孤立や閉じこもり防止に寄与する。

評価：高齢者を対象とした各種事業の定期開催を通じて、外出や交流の機会を提供し、健康づくりや生きがいつくりにつなげることができた。今後は、参加の習慣化を意識した事業構成とし、フレイル予防と主観的幸福感の向上を図る。

(3) サークルの高齢化が加速する中、団体の活動が無理なく続けられるよう、地域の核となる生涯学習施設として情報収集や発信を行い、地域や社会で活躍する人材・団体を支援する。

また、日々の施設管理・運営において、来館者の体調不良や不慮の事故など不測の事態に冷静に対応できるよう、日頃から職員間で手順を共有していくことで、いざという時に判断・行動できるようにする。

評価：団体の自立的支援を継続しつつ、公民館主催事業を増やしたことにより新たな参加の機会を創出し、団体に属していない住民とも継続的な関わりを持つことができた。また、職員間や利用団体と不測の事態への対応手順の共有を図るなど、施設運営における安全管理体制の強化にも努めた。

(4) 公民館設置30年を経過し、水廻りなど設備の不具合箇所が多数生じている。事業実施に支障のないよう、日常での点検整備を心掛け、来館者が安心して利用できる居心地のよい施設を目指す。

評価：施設の適正な維持管理、不具合箇所への早急な対応など、事業運営に支障なく施設を

維持することができた。夏季には空調の不具合が生じたが、利用団体への丁寧な説明と理解を得ながら対応したことで、大きな混乱なく運営の継続を図ることができた。

- (5) 改修工事期間での公民館事業の開催においては、トラブルなく滞りない施設運営を行うために、利用者や地域住民の理解や協力が得られるよう、誠意ある説明、わかりやすい広報活動等の環境整備に努める。

評価：改修工事期間中においては、利用制限や工事進捗の告知を利用者や地域住民へ丁寧な説明と広報周知に努めた。混乱なく安全に事業を継続できたこと、かつ、工事中にも関わらず利用者数が大きく減少しなかったことは一定の成果と考える。今後も利用者の理解と協力を得ながら、円滑な運営に向けた環境整備に努めていきたい。

令和7年度坪井公民館重点目標に対する評価

- (1) 地域住民の防災意識が高いことから、ニーズに合致した防災学習の場を提供するため、地域の防災について主催者（公民館）と参加者（住民）が一緒に考えた体験・実践型の事業を実施する。

評価：坪井地区自治連合会の協力のもと、学習テーマを選定し、地域防災講座を実施した。避難所を開設するにあたって、様々な課題に対応するための具体的なスキルを習得できる効果的な講座だったと認識している。坪井地域は自治会・町会の防災担当者を中心に、防災意識への関心が高く、日頃から災害時の備え等について準備を進めていることから、今後についても、各町会・自治会の皆様と意見交換を行い、ニーズに沿った講座を実施していきたいと考えている。

- (2) 地域の各種団体・機関と連携して子供たちに体験活動や学習の場を提供し、青少年の健全育成・居場所づくりに取り組む。

評価：坪井地区社会福祉協議会、坪井地区スポーツ推進委員会、船橋市スポーツと健康を推進する会などの団体の支援をいただき、地域の大人たちが温かく寄り添うことで、子どもたちが参加しやすい事業の実施ができたと感じている。また、大学施設が近いというロケーションを活かして、大学の先生方のご協力をいただいた体験型の事業を実施できたことも効果的であったと感じている。

- (3) 様々な世代や環境の方々のニーズを的確に捉え、また、福祉や国際社会との繋がり等を視野にいれながら魅力ある事業を展開し、地域の方が積極的に学習・文化・スポーツ活動に携われる場を提供する。

評価：「メイクアップ講座」「日本刀入門講座」「大人の折り紙講座」など、様々な世代や環境の方に向けた多面的な事業が実施できたと考えている。また、「有償ボランティア入門講座」や「異文化コミュニケーション講座」など、福祉や国際社会を視野に入れた事業を実施できたことも効果的だったと感じている。次年度についても地域の様々な方々が進んで参加してくれるような、魅力ある事業を実施していきたい。

- (4) 高齢者が家に引きこもらないように、高齢者向け事業を定期的に行い、生きがいつくり・仲間づくりを支援する。また、高齢者が運動機能を維持するためのきっかけとなる事業を行う。

評価：「坪井みのり学級」「介護予防教室」「シルバーリハビリ体操」などの事業を実施した。運動機能の低下や、孤立化が進まないための一助となったのではないかと考えている。超高齢社会の現在、高齢者の身体機能を維持しながら、生きがいつくりや仲間づくりが行えるように、次年度についても、様々な趣向をこらした事業を実施し、高齢者の生活を援護していきたい。

- (5) 子育て世代を支援し、また、親子の絆を深めるために、親子で一緒に参加できる事業等の充実を図る。

評価：「我が子のためのおもちゃ講座」など、子育て世代を中心とした地域の一般成人を対象に様々な学習機会を提供するとともに、親子で学ぶことで絆を深め生活を豊かにす

ることを目的として、「ファミリーわくわく体験教室」を実施したほか、児童ホームとの共催による乳幼児親子に寄り添う講座にも力を入れた。坪井地域の人口構成で一番多い世代が公民館に興味を持ってもらえるよう、次年度においても新たな取り組みに挑戦してみたいと考えている。